

# The Council of College English Teachers

## 全国高等専門学校英語教育学会

### 第 3 5 回研究大会プログラム

主 催：全国高等専門学校英語教育学会（COCET）  
 期 日：平成23年9月2日（金）～4日（日）  
 会 場：京都テルサ（京都府民総合交流プラザ）  
 〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地  
 TEL：075-692-3400 FAX：075-692-3402  
 参加費：COCET 会員は無料（非会員は2,000円）

#### 1. 日程

##### ◆第1日 9月2日(金)

15:00～17:00 理事会（西館1F カフェサロン「heart garden」）

##### ◆第2日 9月3日(土)

10:00 ～ 12:00	12:00 ～	13:00 ～ 13:35	13:40 ～ 15:00	15:00 ～ 15:50	15:50 ～ 17:30	18:00 ～ 20:00			
情報 交 換 会	受  付	総  会	特 別 講 演	写 真 撮 影	休 憩	研究発表 I	懇 親 会		
						[1]		[4]	[7]
						[2]		[5]	[8]
賛助会員展示(東館2F 第1セミナー室)									

##### ◆第3日 9月4日(日)

9:30 ～ 12:10		12:10 ～ 13:10	13:10 ～ 14:40	14:40 ～ 15:00	15:30 ～ 17:00		
研究発表 II		昼 休 み	フ ォ ー ラ ム	閉 会 行 事	C O C E T サ ロ ン		
[9]	[12]					[15]	[18]
[10]	[13]					[16]	[19]
[11]	[14]	[17]	[20]				
賛助会員展示(東館2F 第1セミナー室)							

#### 2. 情報交換会（東館2F 第2・第3セミナー室）9月3日（土）10:00-12:00

- ・司 会：亀山太一（岐阜高専） 小野真嗣（苫小牧高専）
- ・テーマ：『授業・研究のための tips』

「研究」として発表するほどではなくても、日頃の授業や研究の中で思いついたアイデアや、ちょっとした小道具、知っておくと役に立つ情報などをお持ちの方は多いと思います。この会では、そのような情報を tips として紹介します。飛び入り大歓迎！

### 3. 特別講演（東館2F 第2・第3セミナー室）13:40-15:00

- ・講師：中山裕木子先生（京都大学大学院非常勤講師、日本工業英語協会専任講師）
- ・演題：「高専学生に今すぐ教えた英語-名詞と冠詞、句読点や数の表記、助動詞、そして3C」  
— 企業が求める書く英語力の基本を在学中に身につけるために
- ・講演内容：高専学生が技術的な内容をいざ英語で書こうとした際にぶつかる問題に、名詞の取り扱いをどうすれば良いのか、冠詞の有無についてはどうか、という問題がある。  
また、例えば、コンマやスラッシュ、括弧、クエスチョンマークなどの前後のスペースが不要か必要か、コロンはどのような時に使えるか、といった、句読点表記の問題もある。またその先、助動詞を使って表現したい場合にも、表したい内容との間にズレが生じることがある。これらの問題を解決し、いかに正確に英語を書くかという点について、指導者の視点に立ち、考えていきたい。

### 4. 研究発表 I 9月3日(土)15:50-17:30

	東館2F 中会議室	東館2F 第3セミナー室	東館2F 第2セミナー室
15:50~16:20	[1] 畠山喜彦（一関） 高校生と高専生の英語学習に対する意識と取り組み-第3学年における比較を通して-(2)  司会：亀山太一（岐阜）	[2] 森 和憲（香川） 海外インターンシップにおける英語事前指導について  司会：南 優次（宇部）	[3] Todd Cooper（富山） Development of Gesture Learning Educational Software to Improve English Communication  司会：崎山 強（都城）
16:25~16:55	[4] 占部昌蔵（長岡） 高専学生の英語学習意欲減退の特徴  司会：武田 淳（仙台）	[5] 吉田三郎（福井） 海外短期語学研修の効果を高める方策について  司会：南 優次（宇部）	[6] Eric Rambo（津山） Findings from cognitive neuroscience relevant for language teachers_  司会：崎山 強（都城）
17:00~17:30	[7] 穴井孝義（大分） 英語学習者の動機付けを高めるための基礎研究-英語の「なぜ？」の基礎資料作成  司会：武田 淳（仙台）	[8] 阿部 恵（八戸） 短期海外研修の及ぼす効果に関する考察-高専低学年生を中心に-  司会：森 和憲（香川）	

### 研究発表 I の発表要旨

[1] 英語を指導する際、学習者の英語学習に対する意識や取り組みについて知ることが重要である。高専において指導をしていると、普通科の高校生との違いに驚くことが多い。効果的な英語指導のために、高校生と高専生の特徴や差異を理解することが重要と考える。高校生と高専生の英語及び英語学習に対する意識や取り組みについて調査し、それぞれの傾向・差異・習熟度による差を分析することを通して、高専における英語指導を向上させるための示唆を得たい。本発表は、第34回COCET研究大会（札幌）において発表したものの継続研究である。

[2] 国際的に活躍できる実践的技術者養成のため、国立高専機構本部を主催者とした海外インターンシップ研修が平成20年度より行われている。当インターンシップは選抜された国立高専専攻科生または専攻科への進学が確実な5年生と教職員とが海外企業にて就業体験・実務訓練を実施するものである。そして当インターンシップ派遣前には、研修生としての心構えやコミュニケーション能力の育成をテーマに事前研修を行っ

ており、筆者は第一回から英語授業を担当している。本発表では実践報告として英語授業の変遷をたどり、現時点での問題点と今後の課題について述べる。

---

[3] Practicing speaking is not enough to develop all-around communicative ability. The famous 7%-38%-55% Rule on non-verbal communication suggests that 7% of communication comes from spoken words, 38% from tone of voice, and 55% comes from body language, when talking about feelings and/or attitudes. In general, most researchers put the importance of non-verbal communication at somewhere between 50-65%. Even at the lowest percentage, non-verbal cues are as important as words when communicating in English.

Given the large class-sizes in Japan, teaching interactive ESL communication classes is difficult. To remedy that, we are developing a software-based gesture system. Through modification of the Kinect web-camera and development of specialized software, we will create a camera that will assist students in gesture training within their ESL communication classes, so students can practice learning this very important type of non-verbal communication.

---

[4] 高専学生の英語力が一般的にいうと低いことはよく知られている。そして、その原因について調べた研究もある。しかし、そのきっかけや意欲減退となった個々の学生の具体的経験についてはあまり調べられていない。そこで、発表者は高専学生の英語学習意欲減退を調べるために、自由記述欄のある質問紙調査を実施した。本発表では、意欲減退について高専学生の特徴を明らかにしていく。

---

[5] 姉妹校提携に基づく国際交流の一環として2週間の海外語学研修の実施も3回目を終えた。前回の事前・事後テストの結果から、学生の英語力はリスニング能力を中心に伸びが見られることが確認されたが、ある程度英語熟達度の高い学生にはそれ以上の伸張は見られなかった。そこで本研究においては、学生の英語学習への取り組みを支援することで、聴解力のみならず、英語運用力全般のより一層の向上を目指した実践の結果を報告する。

---

[6] Cognitive sciences provide highly useful sources of information about language learning. This presentation reviews some important cognitive and neurological models of language processing in order to highlight possible connections to teaching methodologies. For example, cognitive models of auditory processing and memory encoding (Doughty 2001) appear to validate the use of reading aloud as a teaching method, and connectionist models of language use (Ingram 2007), which emphasize multiple spontaneous processing networks, appear to validate four-skills approaches to teaching. The rationale for drawing these connections will be explained, and audience members will be invited to participate in examinations of their own processing systems, with the goal of developing a deeper awareness to pass on to students.

---

[7] 高専生の英語学習意欲を高めるための教材開発の前段階として、学習者が英語に関しどのような疑問を抱いているかを検証するため、全国の高専生を対象にウェブ上で記述式アンケート調査を実施した。1. 文法に関する疑問、2. 単語や発音に関する疑問、3. 英語圏の生活全般に関する疑問、4. 専門科目の英語に関する疑問、5. その他の疑問、の5項目について回答してもらった。本発表では、これらの「生」の疑問について考察を加えていきたい。

---

[8] 高専高学年生と専攻科生のインターンシップや国際交流は充実してきているが、低学年生の国際交流については手薄な状態である。学生の英語力及び国際性を向上させるには、低学年生から継続した国際相互交流の取り組みが必要である。本研究では、「低学年生」で短期海外研修に主体的に参加した学生たちの英語コミュニケーション能力、英語学習意欲、自信、異文化社会に対する意識などの変化を調査した結果を発表する。

---

5. 懇親会 18:00-20:00

会場：京都テルサ東館1F レストラン「朱雀」

TEL：075-692-3426

会費：¥5,000

6. 研究発表Ⅱ 9月4日(日) 9:30-12:10

	東館 2 F 中会議室	東館 2 F 第3セミナー室	東館 2 F 第2セミナー室
9:30~10:00	[9] 熊谷 健 (群馬) 「前置詞残留型」一記号づけ を利用した指導法一  司会：中井大造 (米子)	[10] 石川希美 (苫小牧) 英語学習状況に関する調査 一高専生の英語嫌いと学習 意欲一  司会：奥崎真理子 (函館)	[11] 土田泰子 (長岡) 長岡高専におけるマークシ ート採点システムの開発  司会：森 和憲 (香川)
10:05~10:35	[12] 伊藤文彦 (群馬) センテンス・コンパイン グ・エクササイズの指導効果  司会：中井大造 (米子)	[13] 渡辺眞一 (北九州) 音読中心の授業で高専学生 の英語学習の意識・TOEIC Bridge 成績はどう変わるか  司会：奥崎真理子 (函館)	[14] 藤井数馬 (香川) 詫間キャンパスにおける受験 形態別に見た英語学力の変 遷一B.A.C.E.および A.C.E. の結果をとおして一  司会：亀山太一 (岐阜)
休憩 10:35-11:05			
11:05~11:35	[15] 中岡尚美 (津山) 「英語環境」の整備と実践  司会：青山晶子 (富山)	[16] 菅原 崇 (岐阜) 企業が求める英語力につ いて：リーディング力向上を目 指した社員研修をもとに  司会：森岡 隆 (和歌山)	[17] 南 優次 (宇部) プレコン入賞の教育効果につ いて  司会：穴井孝義 (大分)
11:40~12:10	[18] 種村俊介 (沼津) 日本人英語学習者の英語の読 みに対する態度一高専生を対 象にした調査から一  司会：青山晶子 (富山)	[19] 永井 誠(産技高専) 産技高専における高学年学生 向けリーディング指導の取り 組み  司会：森岡 隆 (和歌山)	[20] 上垣宗明 (神戸市立) チームでの英語プレゼンテ ーション実施に向けた取り組 み  司会：穴井孝義 (大分)

研究発表Ⅱの発表要旨

[9] 英語には、前置詞の後に来る名詞が関係詞や疑問詞である時、その前置詞を残した形で関係詞／疑問詞が前置される場合がある。前置詞残留と呼ばれている現象である。本発表では、「記号づけ」を利用した指導方法を採用することで、関連概念を段階的に教授しながら、学習者がこの構文の特徴と現象を比較的抵抗がなく理解できる方法を提示する。wh 移動タイプ、関係代名詞タイプから検討し、さらに to 不定詞タイプへと応用し、最後に受け身タイプを扱う。

[10] 高専生の英語学習状況に関して実施した調査結果をもとに、「英語嫌い」の学生の特徴、高専生の英語学習傾向、英語の学習意欲などの事項を取り上げて考察する。高校生との比較という観点から、高校生を対象に行われている調査の質問項目を利用したため、その結果とも比較していく。これまですでに行われている高専生の英語学習に関する研究結果なども概観しながら、高専生の英語学習に関する課題点や改善点を探っていく。

[11] マークシート方式によるテストの利用には採点時間の短縮や採点データ分析の簡易化といった利点があるが、出題方法の画一化や運用コストの面での問題点もある。また、定期テストへの導入時の対応や成績データの管理といった、従来の筆記テストにはない問題も生じる可能性がある。本発表では長岡高専で行われてきたマークシート方式によるテスト実践を分析し、応用可能なシステム開発に向けた検証を行う。

- [12] 1960年代以降、米国ではESL学生の統語上の熟達度を高める作文指導として、センテンス・コンバイニング・エクササイズが利用され、多くの研究・実践例が報告されてきた。しかし、日本では、センテンス・コンバイニングに関する研究および実践例は極めて少ない。そこで本研究は、定評のあるセンテンス・コンバイニングの授業を高等専門学校5年生の授業に取り入れ、その指導効果を検証した。本研究結果は、英作文指導の一方向性を提示することが可能であると思われる。
- 
- [13] 2年生 (n=42) 英語 AⅡの授業開始時に事前の質問紙調査を行った後、音読活動を中心とした授業を約1年間行い、再度同じ質問紙による調査を実施して、学生の英語音読および英語学習に対する意識の変化、さらに授業の自宅学習への影響を探った。また、1年後のTOEIC Bridgeでの成績変化で授業の成果を検証した。その結果、質問紙調査ではすべてのカテゴリーにおいて有意差のある上昇があった。また TOEIC Bridgeの得点変化では有意な平均上昇(6.76)が見られ、他クラス学生(n=171)の平均上昇(3.63)を3.13上回った。
- 
- [14] 香川高等専門学校詫間キャンパスでは、学生の英語学力の伸長を把握するために、1年生に対して年に2回B.A.C.E.テストを、2年生および3年生に対して年に2回A.C.E.テストを実施している。本発表では、3年生まで合計6回受験するこの外部試験の結果を用いて、推薦入試合格者と学力入試合格者という入試形態別による2集団に分け、過去4年間の両者の成績推移を追った結果を提示したい。
- 
- [15] 英語への興味をどう抱かせるかは苦慮している点であるが、「楽しい、わかる、通じたと実感できる”経験”がモチベーション向上への一方策だと考え、授業外でそれにつながる実践を試みている。一つ目は、昨年度後期から開始した、毎日昼休みの学生による英語放送で、音楽、留学生へのインタビューなどで構成されたものである。2つ目は今年度開設した「カフェフロンティア」(イングリッシュカフェ)である。その2つの指導実践報告と、問題点、今後の課題について述べる。
- 
- [16] 本発表は平成21年度後期から22年度前期までの1年間、岐阜高専の英語教員が地元企業との共同研究という形で行った、同企業社員の英語のリーディング力向上を目指した研修の報告である。本発表では特に、研修開始当初受講者である社員が苦手とした点、それを踏まえた形での各自の学習法や教員側の教授法の工夫、研修終了後各受講者が克服できた点、残された課題、などをより具体的に報告する。最後に報告をもとに現時点で企業が求めている英語力について考察する。
- 
- [17] 宇部高専では、プレコン第一回大会から、学生部が中心となって、学内に出場者募集案内を出し、全国大会をめざすよう指導している。第4回大会に本校から初めてエントリーしたチームが、3位入賞を果たした。この3名は、学生表彰を受け、また、現在進行中の「女子学生志願者増のためのDVD作成プロジェクト」のコンテンツとして採用された。今回の発表は、この12分のDVDから、英語が好きな学生にとって、プレコンが英語教育にとって、有効なイベントであることを確認し、学内、あるいは他高専の学生の取り組みがよりしやすくなるように、意見交換することを目的とする。
- 
- [18] 本研究では、Yamashita(2007)で使用された質問紙を用いて、高専3・4年生を被験者に、英語と日本語の「読みに対する態度(RA)」を調査した。本発表では、得られたデータにより、英語と日本語のRAのそれぞれの特徴や差異、英語読解力の英語のRAへの影響等を考察する。加えて、高専1年生のRAを調査した種村(2011)の結果を基に、高専1年生と3・4年生の英語と日本語のRAの比較を行なう。
- 
- [19] 都立産技高専では英語教育重視の学校方針が掲げられ、その到達目標の一つに「高度な英文の大意を取る」という項目が挙げられている。この目標達成のために外国語科としては、平成23年度の具体的取り組みとして(a)主語+述語+キーワードに注目したリーディングと(b)複合文構造の体系的教授を試行することになった。本発表ではその具体的指導法を紹介し現時点での成果を報告する。
- 
- [20] 神戸高専では、平成22年度に専攻科1年生を対象とした後期英語演習の授業で、これまで実施してきた個人によるプレゼンテーションから、3人1チームで行うプレゼンテーションへとそのスタイルを変更した。以前からのプレゼンテーションの取り組みや変遷、昨年度の取り組みについて紹介する。また、昨年度の学生のアンケート結果から、チームでプレゼンテーションを行うメリット、デメリット、今後の課題などを検討する。
- 

## 7. フォーラム(東館2F 第2・第3セミナー室) 13:10-14:40

- ・ 司会：武田 淳(仙台高専) 穴井孝義(大分高専)
- ・ テーマ：“高専の英語教育：現在とこれから”

8. COCET サロン（東館2F 第2・第3セミナー室）15：30-17：00

大会を振り返りながら、「もっと言いたい」「もっと聞きたい」という会員のために、インフォーマルな雰囲気でのディスカッション、情報交換の場を設けました。個人で、あるいはグループで、自由に語り合きましょう。

9. 賛助会員展示（東館2F 第1セミナー室）

2日間を通して、賛助会員各社様の教材、書籍等の展示を行っています。大会中、休憩時間等を利用して一度は足を運んでくださるよう、お願いします。

大会事務局：全国高等専門学校英語教育学会(COCET)事務局

〒981-1239 宮城県名取市愛島塩手野田山 48  
仙台高専名取キャンパス 武田 淳研究室内  
TEL/FAX：022-381-0281  
e-mail：[office@cocet.org](mailto:office@cocet.org)  
COCET-HP：<http://cocet.org/>